

はじめに

J91, J97 に続く情報専門学科カリキュラム標準策定を目指す J07 プロジェクトの中間報告をお届けする。

情報処理学会が情報専門学科カリキュラム標準 J97 を公表してからすでに 10 年近くが経過した。この間に、情報に関する科学技術は大いに発展し、情報技術をインフラストラクチャとして社会も大きく変貌しつつある。IEEE CS と ACM は共同してカリキュラム標準策定を進め、2001 年に CS 領域に対するカリキュラム CC2001 を公表して以降、順次 IS, SE, CE 領域に対するものを公表してきた。2005 年には IT 領域を新設してそのカリキュラム標準を公表するに至っている。日本国内でも、産業界の状況が大きく変わり、情報技術がその根幹部分にまで関与するようになった。高度情報技術者を求める声も大きくなり、2005 年には経団連が高度情報技術人材養成に関する社会提言を出し、文科省による先導的 IT 技術者育成拠点プロジェクトが実施されるに至っている。

こうした動きに呼応して、情報処理学会では、その情報処理教育委員会の下に情報専門学科カリキュラム標準策定プロジェクト J07 を発足させた。このプロジェクトは、2007 年度中にカリキュラム標準を公表することを目標とするものであり、CS, IS, SE, CE, IT の各領域ごとに委員会を設けて作業を行う。その 5 委員会の相互連絡と全体調整を行う連絡委員会は、2006 年 7 月に第 1 回会合を開いて以後、毎月 1 回の割りで会議をもってプロジェクト全体の統括・推進にあたってきた。

J07 プロジェクトは、日本国内でのカリキュラム標準を策定することを目標とするが、そこではこの分野におけるカリキュラムの国際的な整合性に十分に配慮する。また、カリキュラムの端から端までを縛るのではなく、最低限どんな知識をどの深さまで習得することを目標とすべきかを定めることを柱とし、具体的な科目配置・学年配当などは一例を示すにとどめる方針でいる。これは、教育プログラムの認定においても、教育方法の開発・実施はそれぞれの教育機関が行うことであり、教育機関の自主性・創造性を最大限尊重していることに呼応するものである。

J07 プロジェクトでは、最初の年度で 5 領域で扱う対象となる知識項目を洗い出し、それぞれに教育プログラムが教育・学習の対象とすべき中核項目を選定した。これらを知識体系としてここに公開するものである。プロジェクトは、なお 1 年の作業期間を残している。多くの部面、多くの方々からご意見をいただき、より望ましいものに洗練していくことを予定している。

2007 年 5 月 30 日

J07 プロジェクト連絡委員会

委員長 笥 捷彦

(情報処理教育委員会委員長)